

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100206		
法人名	社会福祉法人 ゆうなの会		
事業所名	グループホームぬくぬくの家・さち		
所在地	沖縄県那覇市首里大名町1丁目43-2		
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果市町村受理日	平成29年11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosoCd=4770100206-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方が50名程参加する「ふれあい交流会」に毎月出かけたり、地域の夏祭りへ参加したりして地域と交流を図っています。また、事業所主催の「ふれあいバザー」には地域の学童や近隣の方など参加され賑わいをみせています。職員は認知症の専門職である事を自覚し、職員自ら入りたい施設作りに取り組んでいます。ご家族も毎日訪問する家族がいるなど多くの家族が頻りに訪れ気軽に話ができる環境ができています。大学や専門学校の学生の実習受け入れ、中学生の職場体験受け入れも多々あり、入居者との関わりを通して、学生が将来の夢を語ってくれる事も楽しみの一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の施設や通所事業所、地域包括支援センターと同じ敷地にあり、連携しながら地域との交流を図っている。年1回の事業所主催のふれあいバザーは地域の方や学童の子供達の参加もあり恒例化している。ボランティアによるウクレレやクラリネット演奏、生け花教室等地域住民が気軽に訪問できる環境の取り組みがされている。又法人として自治会に加入しており、地域の行事である夏まつりにも積極的に参加している。地域の保育園児や児童館に小さなランドセルのお守りや手つくりのクッキーなどをプレゼントして喜ばれるなど、利用者との関係性の継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できる場所に掲示している。スタッフ勉強会やミーティングでは、理念を唱和し、理念に基づいた支援ができるように務めている。	事業所設立時に職員と共に作成した理念を、1階正面玄関と2階に掲示し、勉強会やミーティングに入る前に唱和することで、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、共有している。3年前に理念が現状に即しているかについて、一度見直しの検討を行ったが、地域生活の継続支援と、事業所と地域、利用者や家族との関係性を重視した理念をそのまま大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事への参加、ホームでの行事等へ声かけし参加頂いている。地域住民が参加して行われている「ふれあいバザー」では、地域からの出品もあり、地域夏まつり、地域の保育園や児童クラブには手作りのクッキーやお守りをプレゼントして喜ばれている。	法人として自治会に加入し、夏祭りに利用者とともに参加している。年1回の事業所主催のふれあいバザーも地域の方や学童児の参加もあり恒例となっている。地域の方のボランティアによるウクレレ演奏や、クラリネットの演奏など定期的に交流がある。地域の保育園児や児童館には小さなランドセルのお守りを贈呈する等、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があっても地域の一人として生活ができる事を交流を通して発信している。「認知症カフェあごら」にも職員が参加し、地域の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本人、家族、地域包括支援センター職員などを交えて年6回取り組み、事故報告なども行っている。29年4月から協力医療機関の職員も参加し事故対応策にも意見を頂き参考にしている。質問、意見、要望を受け運営に反映させている。また、議事録は玄関前に提示している。	運営推進会議は、利用者と家族、市担当職員、が参加し、年6回定期的に開催されている。事業所の状況や事故報告、外部評価での目標の取り組みなど意見交換が活発に行われ、運営推進会議録は玄関カウンター前に提示する等サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、那覇市グループホーム連絡会へ参加し、日頃困っている事など相談しながら協力体制を築いている。研修会の情報などももらい積極的に参加している。介護保険法改正の説明会等への参加もしている。	運営推進会議には市の担当職員や地域包括支援センターの職員も参加しており、情報交換も密にしている。法改正に伴う研修も案内があり参加している。市のグループホーム連絡会にて情報交換や、相談、助言などもあり連携を深めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての勉強会を行ったり、日頃のケアが拘束に繋がっていないか職員同士話し合いを行い、身体拘束をしないケアを心がけている。外出を止めるのではなく、職員と一緒に散歩をしたり本人が行きたい所まで同行し、疲れが見えた時は事業所へ連絡し帰りは車で対応するなどしている。	法人内で身体拘束委員会があり、身体拘束廃止の方針やマニュアルが整備され、月1回勉強会を実施している。勉強会の記録があり、勉強会の内容を全体に周知するため職員全員の確認印がある。又利用者が外出したい時など止めるのではなく一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアをしている時の言葉使いや態度が不適切ではないか研修会や勉強会を通して学んでいる。ミーティングでの話し合い、法人の「接遇委員会」へも参加し、虐待を見過ごさない様取り組んでいる。	法人内で「接遇委員会」があり、一緒に参加している。日頃のことは使いやケアの在り方などが不適切ではないか等、勉強会や毎月1回のミーティングで確認し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や順守に向けた取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については事業所内で勉強会を行い、必要に応じて説明ができるように資料も準備している。現在1名の入居者が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、利用者や家族に契約書や重要事項説明書を用いてサービス内容等を説明している。説明の中で不安や疑問がないかお聞きし、納得頂いて契約を締結している。介護報酬や制度改正時はその都度説明を行っている。契約書や重要事項説明書など、署名欄を統一するなどして利用者や家族が分かりやすいように工夫している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族とのコミュニケーションを密にし意見や要望が出せるように心がけている。玄関前に「希望の声」箱を設置し、家族や外部からの意見が反映できるようにしているが利用がない。今後は、意見なども苦情として受け止め会議等で検討し運営に反映するように努める。	利用者や家族は運営推進会議にも参加しており、意見の交換を行っている、又電話や面会時には常に声をかけ、日頃から家族とのコミュニケーションを密にしている。3年前にはデイサービスに連れて行ってほしいとの要望があったが制度上の問題があり叶わなかった。食事などの要望もあり、出された要望はミーティングで話し合い反映させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、意見や提案、不満が言いやすい環境作り、聴く姿勢に務めるようにしている。意見、提案等を毎月のミーティングや年2回のスタッフとの個別面談を通して、職員の希望や提案等が運営に反映できるようにしている。	管理者は年2回の個別ヒヤリングや毎月のミーティングなどで意見を聞く機会とし、勤務内容の変更、勤務の見直し、休憩時間の再確認など、職員の意見を運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回人事考課を行い、職員が目標に向けて向上心が持てるようにしている。資格取得・習い事、趣味・研修会等に積極的に参加できるように勤務体制も考慮し、やるがいのある職場を目指している。	年2回人事考課を行い、職員が目標達成に向け向上心を持って働けるよう支援している。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は資格手当を支給し、本人の意向を重視しながら活かせる職場の環境づくりに努めている。職員の疲労やストレスの原因、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。希望休を取り入れ、ライフワークバランスが維持できるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に合わせて研修会・勉強会へ参加してもらい、本人の自信にもつなげている。研修後は勉強会にて報告し、他職員のスキルアップにもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会、那覇市グループホーム連絡会へ参加したり、主催する研修会や勉強会へ参加し、情報交換を行っている。また、施設見学もお互いに行いサービスの質の向上に務めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用者の状態確認や生活状態を把握するよう努め、また施設も見学してもらっている。本人の想いを傾聴し、安心してもらえる関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や想いをゆっくりとお聞きし、家族が相談できる時間に合わせ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、利用者、家族から今必要なサービスをお聞きし検討している。本人や家族以外にも情報を提供して頂き対応している。見学やまた場合によっては他のサービス情報も家族に提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は利用者であることを意識し、各々のできることをやっていたり相互に協力する生活を築いている。理念に基づき、一方的な立場にならないように心がけている。また、アセスメントやケアプランの作成、ケース会議等で検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日々の生活(喜んだ事、不安に思っている事等)伝えるようにしている。日々の出来事を綴った写真も提供し家族と情報を共有し、本人を支える関係作りに務めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人との継続的交流ができる様に支援している。また、馴染みのヘルパーや宗教関係の方の来所もあり本人が安心されている。住み慣れた地域をドライブしたり出かけたりする機会を設けている。本人の想いを聞き、清明祭や家族の誕生日会へも参加されている。	地域の運動会への参加や、自宅周辺をドライブしたり、法人主催のふれあい交流会に参加している。又利用者の知人、友人、宗教関係や以前世話になったホームヘルパーやアメリカから友人が訪ねてくるなど、継続的な交流ができるよう働きかけている	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑になる様、利用者同士の関係や力、個性を活かし職員が調整役となる。トラブル回避フォローを行うとともに、活動を通して良好な関係作りができるように支援している。状況を見ながら時には席替えも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても利用中に培った関係性を大切に、近況報告や退所した先にも出かけその後の経過もお聞きしている。退所後も相談などの電話もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしのなかで、発言や表情、行動から思いや希望、意向の把握に努め、声掛けを行っている。家族からの情報、意向を得て活用している。「そばが食べたい」「コーラが飲みたい」など本人の意向を聞き一緒に出かけたりしている。	日々の暮らしの中で、「そばが食べたい」「コーラが飲みたい」等の利用者の意向を聞き、一緒に買い物に行く等、希望に沿った支援を行っている。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情や行動が気になるときはご家族や関係者から情報を得たり、散歩をしながら声をかけ、反応を観察して思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の歴史、生活環境、価値観等、過去の暮らしぶりの情報がその人を理解するために必要であり、家族や地域の人達の継続的な働きかけに務めている。日常生活のなかでの会話から出てきた事柄なども職員間で申し送りする事で情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各々の生活リズムを記録してその人の総合的な把握に務めている。本人のできる力を職員と一緒にやってみる事で発見していくように務めている。利用者・職員をそれぞれの担当制にし、ミーティングでの話し合いを行い統一したケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	地域で本人がよりよく、その人らしく暮らし続けるために、家族へは日頃の関わりの中で様子を伝えている。本人が暮らしやすいように本人の希望や想いを尊重しながら、その人に合ったケアを、家族の意見も含めてミーティングを行い、職員間でも意見を出し合って計画している。	担当者会議は利用者と家族、職員が参加して開催し、それぞれの意見を介護計画に反映させている。職員は介護計画を意識して生活の支援状況を記録している。毎月モニタリングを実施し、計画は定期的な見直しと要望があったときや、体調の変化時等、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活の様子」として個別に記録して日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。個々の生活の様子や体調の変化等、特に気になる事は申し送りに転記して、勤務開始前に職員間での情報共有を図り、実践へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診や送迎の支援を行い、本人の安定した暮らしを支え、家族の負担軽減にもつなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会や地域の行事へも参加している。「啓蒙の会」や民生委員など地域資源を活かしながら地域の方との交流を深めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望しているかかりつけ医を利用し、受診時は本人の記録なども準備し家族へ持たせ、密にかかりつけ医とも情報の共有を図っている。家族が同行できない時は職員にて対応し診察後は家族へ報告している。	入居後も、本人や家族の希望するかかりつけ医を継続している。受診時には近況情報だけでなく、利用者が医療を受けた受診日や病院名、状況等も添えて情報提供し、適切な医療が受けられるように支援している。受診は家族対応で結果等は口頭で受け記録し、職員間で共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理のなかで、利用者の状態に変化を感じた時は、訪問看護へ迅速に連絡し適切な医療に繋げるようしている。急変がある時は法人内の関係者へも応援をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報を提供し担当のケースワーカーとも連携し病状の把握に務めている。電話や面会時にも状況を聞き、退院後の受け入れがスムーズに行えるようにしている。その都度、安心して治療を受けられるように務めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の際に重度化や看取りの指針について説明し、同意を得ている。家族、医療機関と連携をとり、施設で対応し得るケアについて説明を行っている。看取りは基本的には行っていないが、家族の希望があれば隣接する特養と連携し対応している。	事業所は、看取りは行わない方針で医療行為が発生した場合や経口から食べることができない場合は、家族の望む、法人施設や医療機関等に繋げるとしている。年1回看取りについて勉強会を行っている。事業所の「重度化対応・看取りケア指針について」契約時に説明し同意を得ているが、その後の話し合い、事業所の状況の変化等の説明は行っていない。	事業所の重度化・看取りケア指針を明確に記載し、同意のもと家族の希望に沿うよう、本人、家族、職員、隣接の特養とも連携した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応についてマニュアルと連絡網を整備し、ミーティングや勉強会でも定期的話し合っている。また必要な対処が行えるように訪問看護からのアドバイスも受けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画し、消火訓練、避難訓練を地域の協力を得て実施している。消火器の使用法、避難経路の確認など実践的に行っている。	夜間時や夜間を想定した避難訓練を、年2回行っている。ホットラインを稼働させて、地域防災協力委員の事業所までの時間も計り実践的に行っている。「火災発生時や地震発生時の対応方法等について」卓上での勉強会も行われている。消防の立入検査での指導や避難経路など確認が行われ職員は共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の気持ちを第一に考え、利用者の人格やプライバシーを尊重した対応や言葉使いをするように心がけている。疑問点等はミーティング、勉強会で取り上げ意見交換を行っている。法人組織の「接遇」に対する委員会へも参加し「スタンダードアクションブック」の作成にも取り組み、職員は一人ひとり携帯している。	一昨年、接遇マナーを目標に掲げ、法人の接遇委員会にも参加し、事業所内で勉強会を重ね、行動する時は本人が不安にならないよう事前に説明、声のトーンや音量に気を付ける、利用者の機能を奪わないなど職員間で共有している。年2回家族にアンケートを実施している。対応が良くなったとの声がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の想いや希望が出やすいような雰囲気作りをし利用者が決定できるようにしている。食事の面でも満足できるよう、いくつか提案し選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の基準はあるが、入居者の生活スタイルに合わせている。その日の体調を確認し、日々の家事や利用者のできる事、好きな事を把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んで頂き楽しめるよう支援している。また、持っている服から好みを把握し、誕生日やクリスマスにプレゼントとし、喜ばれている。外出時にはヘアスタイルやお化粧品など身だしなみにも配慮している。また、月一回の啓髪の会を利用しカットしてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態や量に配慮し職員と一緒に食事が楽しめるように静かなBGMを選び雰囲気作りを大切にしている。見た目ではわからない刻み食やソフト食はその都度メニューを説明している。	3食、利用者に合わせた食事形態、量も法人から配膳された配食で、調査当日はテーブル拭きや食器洗いで利用者の参加が確認できた。時々おやつ作りに参加している。利用者の食べたい要望等は直ぐには反映されないが法人の栄養士に伝えている。職員も一緒に食事は1～2名で、職員の休憩時間確保の為シフトで、職員も同一の食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事、水分摂取量を把握し、水分が足りない利用者には手作りゼリーやヨーグルト、時にはかき氷、他にも数種類選べるように準備している。体重の増減がある時は法人内管理栄養士と相談しながら支援している。月1回の体重測定を行い、主治医と相談しながら食事量などの調整も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守りを行い、プリュテック(衛生水)で、うがい歯磨きをしている。一人ひとりの力に応じた歯磨きや歯科医からのアドバイスももらい清潔保持に務めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンに応じて誘導しトイレでの排泄ができるように支援している。誘導時にはさりげなく対応し表情やしぐさに注意し、介助するペースをゆっくり丁寧に行っている。	日中はトイレで排泄出来るように取り組み、法人での「排泄メカニズムについて」の勉強会に参加している。一人ひとりの排泄パターンを把握して、個々の時間に応じた対応で失敗する方が減少している。失敗した場合等、対応できるように、トイレや浴室に、個々の下着やリハビリパンツ等を準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳か手作りヨーグルトを提供し、10時、15時はお茶の時間を設け水分補給に務めている。体操や散歩など適度な運動も行っている。便秘時は訪問看護やかかりつけ医や主治医と相談し、本人に合った薬で排便コントロールしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴と入浴のない日は足浴を行っている。朝の清拭も毎日行っている。時間も本人の要望に合わせて臨機応変に対応している。また、入浴中も会話を楽しみながら実施している。	浴槽も設備されているが、シャワー浴で、週2回入浴支援を行っている。希望があれば毎日でも可能である。毎朝の清拭等を行い、入浴ない日には足浴を実施している。嫌がる場合は時間や職員を変更したり、異性介助についても本人、家族に了解を得て行い、無理強いをすることなく、本人に合わせて支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のこれまでの生活習慣を理解し、休息時や就寝時の照明や温度設定にも気を配り、リラックスして安眠できるように工夫している。日中は家事活動や散歩など、生活リズムを整えるようにしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方されている薬について理解し、処方箋を利用者毎に管理し、すぐに確認できる場所に置いてある。受診後には、申し送りに記録し職員全員が把握するようにしている。体調経過などの情報を家族や医療機関に提供できるように支援している。	医療機関から処方された薬は、管理者が区分けし、薬に、月日、名前、回数(食前、食後の朝、昼、夜)等を間違わないように記入している。夜勤者が翌日の薬をセットし、飲ませる時には声に出して本人と確認しながら服用するまで見届け、空の袋もセット容器に入れて置く。職員は薬については勉強会で学び、本人の写真と薬の写真を貼って共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ができる又は好きな家事作業を役割とし、自信と喜びを感じてもらえるように支援している。花壇の水やり、体操、塗り絵など日々の暮らしの中で張り合いを持ち生活できるようにしている。地域交流会へも参加し楽しみごとの機会を設けている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族と共に敷地内や地域内を散歩したり、ドライブ、浜下り、外食などの外出支援も行っている。本人の希望により子供や孫、職員も一緒に遠出したりして風景や地元の食事などを楽しんでいる。	本人の希望や外気浴、気分転換として、法人敷地内や事業所周辺を散歩している。日頃の会話の中でいきいたい処等を聞いて、家族に協力願ひし、職員、家族と一緒にふるさと訪問、首里城、レストラン等個別に出かけている。五感刺激の機会として、季節行事の初詣、浜下り、地域の夏祭り、イルミネーション見学、ドライブに出かける。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の時の支払いは金額を確かめ、本人がお金が払えるように支援している。お金を常に持っていたいという利用者には家族からお金を預かり、本人から希望があればすぐにお渡しし安心して頂くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族へ電話をかけたり、家族から事業所へ電話があれば、本人へ取次ぎお話ししてもらい、家族や知人との絆が途切れないように支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁の飾りを変えたり、季節の花を生けたりしている。日めくりカレンダーをめくり、季節感を感じてもらおうようにしている。ソファやクッションを置き、利用者が好きなように使用して居心地よく過ごせるように配慮している。	居間には利用者が活けた花を飾り、テーブルやファアを配置し、利用者は好きな場所で寛いでいる。居室は1、2階で、日中は殆ど2階で過ごし、午睡も居間のソファでの要望がある。場所間違いしやすいトイレなどは矢印で表示している。、1階にもテレビ、ソファを置き、思い思いに過ごせるよう居場所を用意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを数カ所に置き、場合によっては職員が誘導し気分を変えて過ごしてもらうよう工夫している。食事の座席も一人ひとりの状況や本人の希望を考慮しながら決定し少しでも快適に過ごせるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、家で使用していた家具・小物は持ってきて頂きそのまま使用している。家族の写真、ぬいぐるみ、好きなスターの写真などそれぞれの好みで飾って安らげるよう工夫している。時には家族が泊まれるようにソファベットや寝具類も準備して提供している。	家具やタンス、鏡台等、使い慣れた物が持ち込まれ、居室でお茶を楽しむ方もいる。時計、カレンダー。家族写真、写真等を飾り、利用者が安らげる環境、個々の飾りを話題にしてコミュニケーションに活かしている。在宅での動作を確認してベット等の配置を行っているが、ベットの上に立ってカーテンを引つ張る利用者のベット位置は安全に配慮し設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりを設置しソファやテーブルの位置等には状況に合わせ移動しやすいうように工夫している。居室の家具の配置やベットの手すりは本人の身体能力を把握し実際に動いてもらいながら環境を整えている。		

目標達成計画

作成日: 平成 29年10月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	入居時に「重度化・看取りケア指針」について、ご本人やご家族に説明を行い、了解を得ている。事業所の方針として看取りは対応できない事を利用開始時に説明しているが、指針の内容に明文化されていない。	「重度化・看取りケア指針」の見直しについて検討し、指針を明確にする。重度化した場合には、ご本人やご家族の意向等を勧告し、母体施設又はその他の医療機関と連携し、受け入れ体制が確保できるようにする。	事業所としての指針を明確に記載し、ご本人やご家族の同意を得る。ご本人やご家族と十分に話し合いを持ち、今後の方針を決める。母体施設又は医療機関に入所、入院できるよう調整、サポートをする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。